

令和4年1月31日

吉川福祉専門学校
校長 久田晴實 様

吉川福祉専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 小潟 竜一

令和3年度 第2回学校関係者評価委員会報告

令和3年度第2回学校関係者評価委員会において実施した「令和2年度自己評価報告書」に対する評価結果について、下記のとおり報告します。

記

1 学校関係者評価委員名簿

阿部 慎也	グループホーム・小規模多機能型居宅介護 サンパティオ 施設長
小潟 竜一	特別養護老人ホーム吉川平成園 介護課長
中山 望	埼玉県立三郷高等学校長
山岡 千賀子	介護保険複合施設憩いの里 介護職員 卒業生
與儀 忍	ケアセンター岩槻名栗園 副施設長

(五十音順)

2 学校教職員

久田 晴實	吉川福祉専門学校長
池上 千恵美	同 教員
山本 晃市	同 事務長代理
田村 貴章	同 係長

3 学校関係者評価委員会開催状況

日 時：令和3年12月16日（木）9時00分～10時40分

会 場：吉川福祉専門学校 演習室

参加委員：学校関係者評価委員5名、学校教職員4名（陪席）

欠席委員：なし

4 委員会次第

開会

(1) 校長挨拶

(2) 議長選出

(3) 報告

① 第1回委員会報告と情報公開について

② 今年度の授業改善等に関する取り組み状況について

(4) 協議

① 第1回学校関係者評価を踏まえた課題への取り組み・改善の進め方について

② 令和4年度重点目標と達成計画・取り組み方法について

③ 学校に対する意見・要望など

(5) その他

① 今後の予定

② 事務連絡等

5 第2回委員会議事要録

別紙のとおり

以上

令和3年度吉川福祉専門学校 第2回学校関係者評価報告書

令和4年1月31日

1 第1回委員会報告と情報公開について

- ・第1回委員会を8月6日（金）に実施した。コロナ禍の中、学校生活は順調に進んでおり、卒業生も希望した就職先にほぼ就職が決まっているとの報告がなされた。情報公開についてはHPに公開されているのでご確認いただきたい。

2 今年度の学校運営学校運営および教育活動に対する中間評価について

- ・令和4年度生の学生ぼしゅうについて、現在、合格者が10名（指定校7名、AO3名）。その他AO入試の出願者が2名おり、現状12名の入学生（本科生）を見込んでいる。今年はコロナ禍のため、高校を訪問することがなかなかできず、高校によっては事務室で書類だけ受け取るようなところもあった。また、新型コロナウイルス感染症を心配する高校には電話等で対応した。今年度の留学生は、1年生4名、2年生5名が在籍しているが、令和4年度の留学生の募集はあまり見込めない。
- ・在籍者数は資料のとおりである。
- ・退学者数は資料のとおりである。
- ・成績不振者は資料のとおりである。
- ・実務者研修受講生数は資料のとおりである。
- ・その他の活動として、岩槻北陵高校との連携事業で2年生の生徒2名を受け入れた。

3 第1回学校関係者評価を踏まえた課題への取組み・改善の進め方について

- ・就職率の向上について、ジョブカード作成アドバイザーを事務部の山本が担当しており、担任と一緒に面談を繰り返している。学生と就職先施設とのマッチングは概ね順調であるが、就職後に休みが続いている卒業生もおり、元担任や山本が本人と連絡をとり学校で話を聞いている。また就職先とも連絡を取り合いながら配置転換等も含めて対応している。
- ・資格・免許取得率向上について、国家試験対策の一環として、教員にはこまめに小テストを実施するよう依頼している。
- ・学生支援について、就職希望先が変更になる学生もいるが、なるべく本人の希望に添って対応している。
- ・学外実習について、施設実習はコロナ禍での実施だったが、概ね順調に進められた。
- ・学生募集について、近隣の高校から毎年コンスタントに進学してもらえるようになってきた。同じ高校の先輩たちが活躍していることを後輩たちが知り、より安心して本校への進学を希望してくれていることが要因の一つと考えている。また介護に関するプラス面の情報が高校生の中でも広がってきていると感じる。
- ・ハローワークについて、受け入れ枠が昨年度の12名から13名に増えた。昨年度は応募者が多く、15名の職業訓練生を受け入れた。高校への訪問がなかなかできないため、HPやYouTubeを更新し学校の情報発信をしている。また来校していただいた希望者には積極的に授業を見学してもらっている。
- ・学生募集について、主に高校生を中心に進められていると思うが、セカンドキャリアで入学したい方も一定数いると思うので、大学等にも声をかけてみてはどうか。セカンドキャリアの方の傾向として、目的意識もしっかりし学ぶ姿勢もいいと思う。
- ・追再試者の割合は、職業訓練生よりも高校新卒者の方が高い。
- ・近年の学生はとても勉強熱心である。ただ勉強のやり方がわからない、自宅での勉強時間が不足しているなどが見受けられる。
- ・通信制の高校から入学する学生はどれくらいいるのか。
- ・通信制の高校から入学する学生は一定数いる。

4 次年度の重点目標および達成計画について

- ・新型コロナウイルス流行下でも安全安心な介護の実現に向けた技術を着実に習得することや、感染症への対応力を着実に身につけさせ、新型コロナウイルス流行下であるからこそできる学びを大事にしていこうと思っている。
- ・進路指導について、給与だけではない様々な観点で考えさせるとはどのようなことか
- ・給料はもちろん大切だが、長く働くためには健康管理も重要と考えている。きちんとした労働時間やお休みがあるかなども重視している。また、職業訓練生の中には小さいお子さんをお持ちの方もいるため、施設に保育所のようなものがあるかなども確認することがある。
- ・新型コロナウイルス流行下であるからこそできる学びとは具体的にどのようなことか。
- ・学生には、特に介護実習の際、施設での感染症対策を学んで来るよう指導している。発熱や手洗いの基準、また利用者への対応も施設によって違うので、実習終了後に報告会を実施し、各施設の感染症対策の情報共有も行っている。
- ・コロナ禍での施設実習ということもあり、実習時間や実習日数の調整をお願いされた施設もあると思うが、実習生を受け入れる施設側の代替策等があれば教えていただきたい。
- ・厚生労働省によると、コロナ禍でどうしても実習先が見つからない場合には、学内実習に替えてもいいことになっている。本校でも、訪問介護実習を受け入れてもらえる事業所に相談したが、ほとんどの事業所で受け入れを断られてしまったため、訪問介護実習についてはすべて学内実習に替えて実施した。また、実習中に施設から感染者が出たため、1日早く実習を終了した学生には学内実習を行い補った。

5 その他学校教育活動全般について

- ・特になし